

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で人間らしく暮らしていただけるよう支援いたします」を事業所理念とし、業務会議では意義を確認し具体的な取り組みを図っている。市報や地域のお知らせ等必ず職員全員が目を通し情報を共有できている。	事業所内に理念を提示し業務会議の中で確認しながら実践に繋げている。職員全体で話し合い具体的なケアの統一を図りながら理念に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入する他、地区施設の理事に就き、総会等の集会に職員が参加しながら、施設への理解を求めている。外出レクで近隣の商業施設等を利用したり、祭りなどに参加し、地域の方々と交流している。	自治会に加入し地域のお祭りや商業施設等の利用行っている。庭でのお茶や園芸行えば近隣の方からの声掛けや野菜等の差し入れがあったりで地域の方との交流が行われている。また実習生の受け入れや中学生の職場体験等行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者のプライバシーに配慮した上で、資格取得目的の実習生や中学生の職場体験実習を積極的に受け入れ、人材育成に貢献している。また、中学校とは、ペットボトルキャップの回収に協力し、交流を続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回自治会長・民生委員・市役所・地域包括支援センター・家族代表が参加の下、開催している。評価結果や活動内容の報告とともに参加者からの質問、意見、要望については、業務会議で報告し、取り組みに活かしている。	定期的に運営推進会議が開催され、会議メンバーから率直な意見や助言を頂き、職員間で共有しながらサービス向上に活かしている。	外部評価のアンケート結果を活用して意見交流ができる取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催の度に出席を依頼している。市の都合により出席に至らないこともあるが、主に会議を情報交換の場として、報告や相談を行い、アドバイスを受けている。	市の担当者と情報交換行い、報告や相談行いながら協力関係を築くよう努めている。今冬もインフルエンザの予防等についてアドバイス頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会を設置し「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに内部研修を実施し、職員に周知徹底を図る為、自己チェックシートを活用し業務の振り返りを行っている。外出・帰宅願望者に対しては声かけや同行して施錠することのない自由な暮らしを支援している。	事業所内での勉強会を通して、身体拘束の具体的な内容と身体拘束の及ぼす影響等について全職員が理解を深め自覚を持ち、利用者の意向に寄り添いながら身体拘束をしない自由な暮らしのケアに積極的に取り組んでいる。自己チェックシートの活用行い振り返り行っている。	自己チェックシートの活用を行い振り返りを行っているが、第三者との評価の食い違いの処理経緯を分かりやすく工夫することが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。内部研修を実施する他、自己チェックシートを活用し日常業務への振り返りを行いながら、虐待の防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、職員が制度についての知識を持ち理解を深めるようにしている一方、ケアマネージャーが主となり、社会福祉協議会、行政等各関係機関と利用者の橋渡しとなり、活用しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約の際は利用者や家族等の抱える思いを傾聴しながら、不安や疑問を可能な限り解消できるよう、十分な説明と話し合いを行える環境を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは運営推進会議や担当者会議への参加を呼びかけるなどして、意見をもらっている。それ以外の方には面会時や電話での対応を行っている。また、外部評価のアンケート結果を受け、改めて家族に意見を聞き取りを行っている。	利用者や家族から苦情を表せる機会や場所があることを繰り返し説明し面会時や電話等で意見や要望を聞くよう努めている。	アンケートの結果で「まあ理解している」と答えられた方が「よく理解している」と答えて頂けるにはどうしたらよいか等の検討が望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム日誌に誰でも記入できるよう、専用の記載欄を設け、職員から意見・要望を出してもらい、業務会議の時に全員で検討する機会を設けている。また、管理者は定期的に職員の個人面談を行い、意見や要望を聞き取りを行っている。	管理者は定期的に職員と個人面談を行い意見や提言を出し合えるよう努めている。またホーム日誌の活用を行い業務会議の中で利用者に対する方法や今後の目標等を設定・検討行う仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は状況を把握する為現場に出向くこともあるが、毎日密に連絡が出来る環境にある。特に職員の資格取得を支援し、取得後は個々が向上心を持って働けるよう配慮している。毎年、職員の為の健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修にはできるだけ多くの職員が参加できるよう、勤務シフトを計画し工夫している。参加した職員は直近の業務会議で発表し、また研修レポートを作成し全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区にある施設と餅つきや運動会などのレクリエーションを企画し、実行し交流しており利用者も楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着いて話ができる機会を設け、必ず本人と向き合って心身の状態や本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始されるまで何度かホームへ来所いただき、話し合いを重ね家族のニーズを引き出している。来所が不可能な家族には電話で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に要望を聞き実現できるよう最善の方策を検討し提案できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者は家族の一員である」という認識を職員が共有して、一緒に生活しているという姿勢でサービスにあたっている。利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、いろいろ教えてもらう姿勢である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には本人の日頃の状態を報告・相談し情報交換に努めている。何か問題が発生した場合にはすぐに家族へ連絡・相談を行い支援の方向を決定し、家族に出来ることがある場合には協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方々にも広く面会に来てもらえるようお願いし、面会時には制限を設けていない。また施設の行事へも積極的に参加協力してもらい、一緒に過ごせる時間を提供している。また、行きつけのお店に続けていけるよう支援している。	利用者や家族の希望を聞きながら、行きつけの理美容院や、これまで大切にしてきた馴染みの場所へ行けるよう支援している。また利用者の家族の面会も多く、以前の利用者の家族との付き合いも続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント・ケアプラン等支援状況の情報提供を行い馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、発する言葉や表情から思いの把握する為、「ケース記録」に書き留め、「モニタリング」で情報収集し、「ケアプラン」に反映させている。また、ご家族や関係者からも、面会や担当者会議に意向を伺い、方針に活かしている。	家族からの情報や日頃の活動の中から利用者の思いや意向を把握するよう努め、本人が言葉にしたことを目標、ニーズとして取り上げ丁寧に分かりやすく記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者等から少しずつ聞き取りをし、それを蓄積しながら本人の全体像へつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者一人ひとりの生活のリズムを理解したうえで、さらに日頃の行動・動作・表情・言葉から変化を感じとり現状の把握に努めている。また、それを詳細に記録しアセスメントやモニタリングに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・モニタリング・カンファレンスに担当職員・施設長・計画作成担当者が関わり必要があれば職員全員で意見交換し、本人・家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き介護計画に反映されるようにしている。	6ヶ月毎に見直ししており、家族からの情報や日頃の活動の中から利用者の意向や心身状況の変化を把握し、職員全員で意見交換しながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し排泄等身体的状況及び日々暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録している。いつまでも全ての職員が確認出来るようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや入所前の体験など柔軟な対応をしている。また、入居者が一時帰宅を希望した際は、付き添い介助し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けるよう警察との連絡体制を確保したり、民生委員との話し合いの場を設けたり、外出時の支援等ボランティアの協力もある。また、おむつ券の利用や代行申請等介護保険以外の支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診を本人や家族が希望した場合は、続けて受診を支援している。それ以外の方は本人や家族の同意・契約を得て、のつはる診療所・ひろたクリニックから2週間に1回の訪問診療を受けている	利用以前からの主治医を変えずに受診している方や訪問診療を受けている方等本人・家族の希望に沿い適切な医療が受けられるよう支援している。結果は電話等で相互報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調やささいな表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。状態変化があれば報告し連携している。		
32		○入院退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。入院によるダメージを防ぐ為に、医師と話をする機会を持ち、ホームとして対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。また、本人や家族の意向を聞き、出来る限り希望に沿えるよう、主治医に相談をしている。	重度化に伴い終末期のあり方について意思確認書を作成し、事業所として出来る事と出来ないことを利用開始時に本人・家族等に説明して理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年数回一斉に実技を含む勉強会を実施し訓練している。また、夜勤時の緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を計画し、全職員参加、消防署立ち会いのもと、指導を受けながら、利用者と共に訓練を行っている。今年度は3・9月に実施。9月には自治会の方々も参加された。	年2回夜間火災を想定した消火・避難訓練を消防署や地域住民の協力を得て利用者と共に実施している。緊急連絡網等の整備も活用しやすいようきちんと整理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関するマニュアルを基に、内部研修を行い、折りに触れ、朝礼時に内容の読み合わせを行い、理解を深めている。自己チェックシートを活用し、日頃の振り返りを行い、管理者は必要があれば指導している	入浴や排泄時の介助等、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように丁寧な声掛けや対応が行われている。マニュアルを基に内部研修を行い、自己チェックシートの活用で振り返りを行い朝礼や業務会議等を通してさらに徹底させている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。外食の際にはメニューを利用者が選ぶようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体の基本的な流れはあるが、希望に添って一人ひとり生活のペースを大切にしている。買い物や散歩等希望された場合も柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みのある理容院がある方は自由に利用できるよう支援し、それ以外の方にも月1回契約している美容師さんにホームへ出張してもらい、カットや毛染めの希望に対応してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者より食べたい物の希望を取り、日頃の献立に取り入れたり、毎月のお茶会で提供し、職員と一緒に楽しむ時間を作っている。また、利用者の個々の能力に応じて、準備や片付けを手伝ってもらっている。	利用者の嗜好の把握に基づく献立の工夫や職員とのおやつ作りで月に一回のお茶会を楽しみにしている。季節感を取り入れた食事で食べやすいように工夫している。食事後の片づけは個々の能力に応じ職員と一緒にしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事を提供し、毎食後、食事・水分摂取量を記録し確認している。また体重の変化に応じて食事量を見直したり、本人の嗜好の食べ物や栄養補助食品を提供するなどし、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた歯磨きの介助または声かけ・見守りを行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。また、必要な利用者には訪問歯科診療を利用し、担当医や歯科衛生士より、指導を受けて、口腔ケアに活用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、尿意のない利用者には時間を見計らって誘導し、利用者全員がトイレでの排泄を基本としている。職員は利用者には配慮し、一人ひとりの生活リズムや身体状態を把握し、それに応じた介助を行っている	トイレでの排泄に心がけ利用者の排泄パターンを把握し声かけや誘導を行いながら、自立に向けた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを記録し個々の排泄パターンを把握している。十分水分摂取を行い野菜中心のメニューで食物繊維を豊富に摂取できるように工夫している。毎朝の体操等身体を動かしたり、腹部マッサージを便秘対策として行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能で自分で入浴できる方には自由入浴を楽しんでもらっている。くつろいでもらえるよう個別入浴を実施している。入浴を拒む方には心情に配慮した声掛けや対応を工夫している。安全の為、常時職員2名が付き添い介助している	利用者の希望や体調に配慮し、意向に沿った入浴支援を心がけ、くつろいでもらえるよう個別入浴を実施している。常時2名対応で安全に心がけている。入浴拒否の方には時間をかけて声かけ等を行い2～3日に一度は入浴できるように支援している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調や希望に合わせて休息がとれるように支援している。眠れない利用者については原因を探り生活リズムを整えるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤提供情報書をファイルに保存し、職員が内容を把握できるようにしている。薬袋に氏名・日付を記入し服薬時には職員が服薬管理を利用者が口に入れるまで確認している。状態変化が見られる時は、受診時に担当医に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から利用者一人ひとりが力を発揮できるよう支援している。野菜作り・掃除・洗濯物たたみ・調理の下ごしらえ・草取り等楽しみながら行っている。ホーム内の季節行事・誕生日会など年間計画を立て実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分に応じて近所を散歩したり、近くのスーパーまで買い物へでかけたり、遠方への外出は家族や友人の協力を得ている。気候の良い日は全員で庭に出て食事やお茶を楽しんでいる。施設行事としても外出の機会を定期的に企画している。	希望により近隣の散歩や買い物、コーヒーショップに出かけたり、季節のお花見やうみたまご等外出の機会を定期的に計画している。自宅に帰りたい利用者には職員が4～5時間付き添って連れて帰ることもあり家族や友人の支援あり。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者には少額ではあるが手元に所持してもらっている。家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも、買い物の際は自分で払っていただけるようお金を手渡すことで社会性の維持につなげている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に支援している。電話の場合は、直接話ができるよう、職員が取り次いだり、また、代わりに職員が用件を取り次ぎ伝えるなど、家族からの手紙や電話も歓迎している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に自然な光が差し込み明るく清潔感のある空間作りに取り組んでいる。適所に観葉植物や季節の草花を配したり、壁面の飾りも季節ごとに工夫している。調理室が居間と隣接し料理の匂いやまな板の音など生活感のある家庭的な雰囲気を大切にしている	共用空間は床暖房で温度や湿度の管理がされ快適に過ごせるよう配慮されている。壁面には日付や季節感が味わえる様飾りも工夫され季節のお花や観葉植物を飾っている。窓も大きく明るく清潔感のある空間で、各所にソファを置いて、思い思いに過ごせるよう配慮されている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事故が起きないようにテーブル・椅子・ソファの配置に配慮し、利用者が自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や道具を持ち込んで使用したり、写真を飾るなど、その人らしい居室にし、落ち着いて過ごせるよう配慮している。各担当の職員を配置し、清掃や衣服の整理等、環境整備を手伝っている。	持ち込みは馴染みの家具や使い慣れた毛布等で壁面には写真を飾り、ベッドの向きや位置、季節ごとの衣類の入れ替え等、本人の希望に合わせて安心して過ごせるよう職員を配置し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動空間の細部に手すりを設置し、廊下を広く取り、邪魔な物は一切置かないようにしている。		